鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
櫻 井 真 弓
〒085-1205 鶴居村中雪裡南　☎64-2620／FAX64-2239

鶴居 タンチョウ　検索

KODOMO湿地交流「つるいっ子×自然戦隊マガレンジャー」IN宮島沼

KODOMO湿地交流つるい委員会では村からの補助を受け、湿原やタンチョウなどの湿地の生きものを切り口に、他地域の子どもたちとの交流事業を行なっています。今年度最初の活動は、渡り鳥の中継地として有名な美唄市宮島沼でのマガンの観察と、宮島沼水鳥・湿地センターを拠点に活動している自然戦隊マガレンジャーの子どもたち（マガレン）との交流です。村内小中学校を通じて参加者を募集し、応募のあった小学３年生から中学３年生の13名と４月27日から１泊２日で宮島沼に行ってきました。

途中の休憩や昼食タイムを含めるとバスでの移動は7時間。到着後は手作りの名刺を交換しながらの自己紹介や、自分たちで考えたクイズなどで釧路湿原と宮島沼の事を紹介し、お互いの理解を深めます。ガンのねぐら入りまでの時間を使って行なった「ヨシ紙作り」はマガレンおススメの活動で、気が付くと子どもたちは自然に役割分担をして、どんどんヨシ紙のハガキを作っていました。

１日目のメインイベントは、マガンのねぐら入り観察です。18：30の日没に合せて18：00頃から沼のほとりでマガンを待ちます。昼間過ごしていた周辺の田んぼから次々に沼に戻ってくるマガンたち。集団で飛来しバラバラと落ちるように着水する様子は、子どもたちには（もちろん私も）驚きの光景です。食べる時に口からポロポロこぼれるラクガンというお菓子の名前の由来がこの様子だとの説明を受けて「あそこで落雁（らくがん）が…また落雁だ！！」と大いに盛り上がりました。

宿泊は、水鳥・湿地センターでマガレンと一緒に寝袋で雑魚寝、食事は参加者みんなで準備するという、今までにはない内容でした。マガレンたちは、普段から同様の合宿？をしているとのことで、食事の準備や後片付けなどは、大人の指示や決まり事がある訳でもなく出来る人が出来る事をという感じで慣れています。気が付くと鶴居の子どもたちも、椅子やテーブルの用意、配ぜん、食器洗いなど、自分から声をかけて一緒に動いています。低学年の子どもたちにとっては、食事の準備の時間は遊びの時間。鶴居もマガレンも関係なく一緒に走り回ったりおしゃべりしたり…それぞれの年齢に見合った交流が出来たと思います。

翌朝は３：30起床で、４：30の日の出に合せて４：00には沼に到着。まだ薄暗い中、声をひそめてマガンの飛び立ちを待ちました。いちばんの大群が飛び立った時の羽音や鳴き声は圧巻で、子どもたちの興奮が伝わってきました。この日のねぐらの利用数は約6000羽とのこと、ピーク時には４万羽が羽を休める宮島沼ですが、つるいっ子には（私にも）十分に満足いく迫力の飛び立ち観察でした。

クッキー作りや宮島沼での自然観察ビンゴなど、２日目の活動も驚くほどに盛りだくさん。早起きの恩恵ですね。でも、昼食を終えて帰路のバスに乗り込むと、すぐに子どもたちの寝息が聞こえてきました。

宮島沼をバックに記念撮影